

中学校 第1学年 国語科 学習指導案

筑紫女学園大学
准教授 人見 誠

単元名

語り手に着目して作品を読み、交流を通じて自分の考えを確かなものにしよう
『少年の日の思い出』（7時間）

単元の ねらい

作品の構成を踏まえ、語り手に着目して作品を読むとともに、交流をすることにより、自分の読みを深めることができる。

本時の ねらい

学習の見通しをもち、主要登場人物と語り手を正確に捉えることができる。
（第1時）

指導時期

3月

指導者用デジタル教科書（教材）活用の意図・目的

文学的な文章（小説）の導入部分では、まず設定（時・場所・人物など）を確認することが大切である。その際、呼称が変わる人物を混同しないように指導する必要があるが、確認の方法が難しく、生徒が確実に理解したかを指導者が把握するのに時間がかかる。また、場面の転換により視点人物が変わった場合に生徒がとまどうことがあるが、この点も、効果的な指導方法がないのが現状である。抽象的な表現が多い文学的な文章を指導するためには、紙ベースの教材だけでは限界がある。

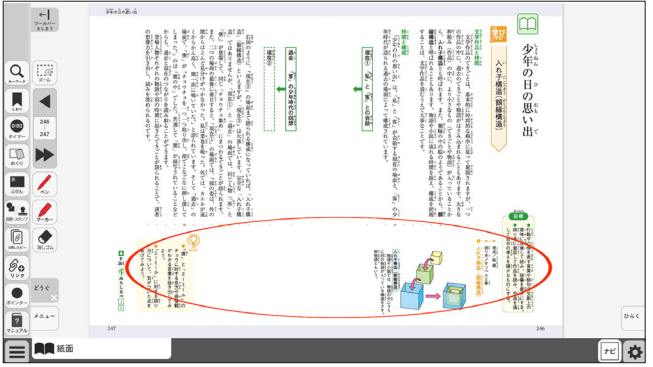
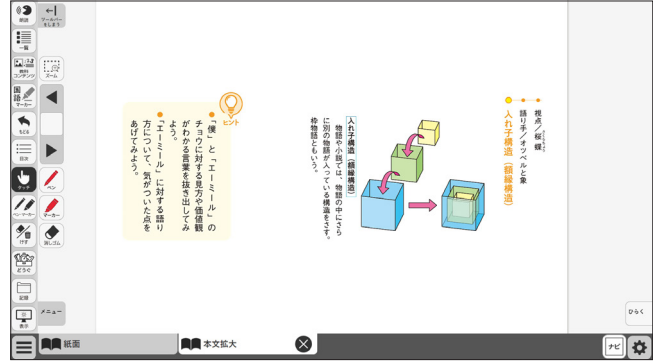
それらの課題を解決するために、「指導者用デジタル教科書（教材）」を活用することが有効ではないかと考えた。特に『少年の日の思い出』では、

- ①冒頭部分に登場する「客」が、その後「彼」「友人」という複数の呼び方をされている
 - ②その人物は自身を「僕」と言っているが、この「僕」がそのまま後半部分の視点人物になっている
- という2つの点を整理する必要がある。①については展開に示したとおり「指導者用デジタル教科書（教材）」を活用することで、視覚化しながら全体で確認することができるので、効率的かつ確実に生徒に理解させることが可能になる。また、①を理解することで、②についても理解しやすくなるという効果も期待できる。

また、前半部分で学習したことは、後半部分の学習にも生かすことができる。具体的には、「エーミール」が、「隣の子ども」「先生の息子」「模範少年」「こっぴどい批評家」などさまざまな呼び方をされていることは、前半部分①の学習の応用になっている。そして、この学習においても、「指導者用デジタル教科書（教材）」を活用することで、生徒の意見を効率よく集約することができるのだ。

本時（第1時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	「指導者用デジタル教科書（教材）」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。	

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	単元全体の流れを確認する ●「学びナビ」を読み、「入れ子構造(額縁構造)」について理解する。	「本文拡大」の活用 ● p.246～247を提示する。 ●「学びナビ」を音読し、理解を促す。  ● 重要な部分を拡大し、理解につなげる。 
	● p.246の「目標」を読み単元全体の流れを確認する。 本文を通読する ● 登場人物をチェックしながら読むよう指示する。	
展開	前半部分の登場人物を整理する ● 全体で共有しながら整理し、ポイントを確認する。	「デジタルメモ」の活用 ① 「デジタルメモ」を大型提示装置で提示し、文章をたどりながら登場人物を抜き出す。 ② 生徒の意見を集約しながら整理する。 ③ 登場人物を確認するにあたってポイントとなることを教師が短冊に書き、全体で共有する。 